4　直接指導と間接指導

(1) 「わたり」と「ずらし」について

① 「わたり」

同じ時間に複数の学年を対象にして異教材を指導するとき、直接指導と間接指導のバランスをとりながら、学習の成立を図らなければならない。

教師はその場合、直接指導と間接指導の組合せの計画にしたがって、ある学年から他の学年へ交互に移動して直接指導をしていくことになる。

このように各学年の間を「わたり歩く」教師の動きを「わたり」という。また、間接指導の学年にも、時々目を配りながら指導を進める場合もあり、これを「小わたり」といっている。

ア　わたりの要領

学年別指導や同単元指導によって授業を進めていく時の「わたり」の要領は、指導過程における学年別指導事項の配慮の仕方やその指導の方法によって決まってくる。この「わたり」はグループ指導や個別指導の教師の動きとは区別して考える。

複式授業の場合には、間接指導の自学自習の時間における学習意欲や学習訓練への指導が十分できていることが、次の直接指導が効果的に進むかどうかにつながるため、教師が精力的にわたり歩くだけではなく、直接指導と間接指導相互の周到な指導計画が必要である。

イ　わたりの目的

「わたり」の目的は、その学年の直接指導が完全に行われて、次の「間接指導」の指針が与えられ、教師がもう一方の学年に移っても学習が一貫した流れで展開されることにある。「わたり」は、学習活動が円滑に進められるような指導助言が、「直接指導」で行われてこそ有効であると言える。

「わたり」をする場合は、各学年の学習過程における指導段階が同時に重ならないよう計画しなければならない。

② 「ずらし」

「わたり」を効率よく行うようにするためには、指導段階を学年別に「ずらした組合せ」が必要である。この「ずらした組合せ」を「ずらし」と呼んでいる。計画的な「ずらし」を行うために複式の授業の指導過程を４段階に分けることがある。

【４段階指導過程】

①　課題把握（つかむ）	②　解決努力（しらべる）	③　定　着（たしかめる）	④　習熟・応用・発展（ふかめる）
直接指導	間接指導	直接指導	間接指導

③ 「わたり」と「ずらし」

ア　【「ずらし」を計画して、「わたり」を行う場合】

下学年	第１段階	第２段階	第３段階	第４段階
わたり				
上学年	第４段階	第１段階	第２段階	第３段階

上学年は、１単位時間の学習の流れが第３段階で終わり、第４段階は、次の時間の始めに持ち込むことになる。

イ　【「ずらし」の型をとらないで「わたり」を行う場合】

<table>
<tr><td>段　階</td><td>第１段階</td><td colspan="2">第２段階</td><td colspan="2">第３段階</td><td>第４段階</td></tr>
<tr><td>上学年</td><td rowspan="4">共通指導</td><td>直接指導</td><td>間接指導</td><td>直接指導</td><td>間接指導</td><td rowspan="4">共通指導</td></tr>
<tr><td rowspan="2">わたり</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>学年</td><td>間接指導</td><td>直接指導</td><td>間接指導</td><td>直接指導</td></tr>
</table>

これは一般的なパターンであり、各教科の特質に合わせた形態が必要になる場合もある。また、各段階の時間も内容、方法により一律ではない。

④　「わたり」のタイミング

一人の教師が学年別指導を行う場合に問題となるのが、間接指導から直接指導に移る「わたり」のタイミングである。次は、算数科の「わたり」の判断基準である。

わたり	わたりの判断基準
間接指導 ↓ 直接指導	○　学習内容を深化・発展させる目的 ・　解決に用いた数学的な考え方や概念の意味をとらえさせる必要があるとき ・　新たな課題に向かわせる必要があるとき ○　学習内容を修正させる目的 ・　よりよい認識をさせるために、他の考えに出会わせる必要があるとき ○　学習内容を調整する目的 ・　問題意識が広がり過ぎ、焦点化する必要があるとき ・　話し合いが行き詰まり、見通しがもてないとき
直接指導 ↓ 間接指導	○　学習内容を自主的に追究させる目的 ・　直接指導したことを基にして、子どもの学習が持続すると判断したとき

⑤　「わたらない」ことについて

「わたり」の研究は、いかに「わたらないか」の研究でもある。教師が他学年の指導に移ったとしても、学習者には関係のないことであり、そのときの課題解決に集中していれば、教師が付いているかいないかはあまり問題にならない。複式学級での間接指導の時間は、自主的な学習態度を育成するのに有効な場でもあり、今後は「わたらない」学習展開の研究（自主学習の仕方を身につける手立て）も大切である。